

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [赤穂市立高雄小学校] 担当教諭名 [坂本 哲也] (3年1組 22名)

相手国・地域 [ロシア]

海外学校名 [Secondary School No.19] 担当教諭名 [Dina Averyanova]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	イツアスモールワールド	35
	図工	壁画を描こう	6

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	伝統文化の美しさと大切さ
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	文化は、長年に渡って国や地域を形作る重要な要素である。互いの国に文化の違いはあっても、昔から大切に守られてきたという点は変わらない。文化を伝え合い、国境を越えて互いの国の文化のすばらしさを理解し合えることを願いに込めた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
児童が考えもしなかった体験ができた。学習や交流を行うなかで、様々な日本の文化を調べ、特色や共通点を子どもなりに見出すことができた。また、本やインターネットで調べる、絵や写真で伝えるといった非言語のコミュニケーションを学ぶことができた。	思ったように交流の機会が持てず、こまめなやりとりがもっと必要であった。また、相手国について調べる活動も不十分であった。自分たちの力で、異国について調べる方法を提示しなければならなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
日本には富士山、和食など、他国にはない豊かな自然や歴史があり、それによって日本の文化が作られてきたことに気が付いた。また、相手校の子どもたちが話す姿や贈り物から、熱心に思いを伝えようという気持ちや、温かい心を感じ取ることができた。	スカイプやフォーラムでのやりとりを通じて、教師の側からも外国を身近に感じることができた。ロシアに関するニュースや文化に興味を持った児童も多く見られた。また、外国にできた友だちとつながる喜びを児童が純粹に感じ、学習の成果を伝えようと思ひ思いに工夫を凝らす姿に成長を感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	相手校の先生や子どもたちの情報を 知る。 自己紹介動画を交換し、見合った。	使ったことのない英語に挑戦し、笑顔 で自己紹介ができた。相手校の自己 紹介は、名前が日本と全然違うことに 驚きながら、興味津々に見ていた。	総合4
共有 テーマ学習	10月 ～ 12月	テレビ会議での自己紹介(11月) 相手校の先生とやりとりし、交流のテ ーマを決定した。テーマを子どもた ちに伝えてグループ分けし、調べ学 習を進めた。 テレビ会議(2月)	インターネットや本を使って調べたり、 調べたことを絵や写真を中心に表した りと工夫が見られた。テレビ会議に向 けて何度も練習に取り組んだ。テレビ 会議では、相手校の博物館からのス カイクに驚き、交流を楽しむことがで きた。	総合20
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	1月	相手校の先生と壁画デザインについ て話し合い、児童が調べたことを教 師が下絵に描いた。	学習の成果をしっかりと作品に表そうと 意欲を見せた。	総合2
創造 壁画制作	2月	グループごとに調べた物を中心に色 塗りを進めた。シンボルの桜の木と 背景は全員で協力して壁画を仕上 げた。	純粋に制作を楽しみ、学習した成果を きれいに表そうと頑張っていた。少し ずつ完成していく壁画に笑顔が絶え ない時間であった。	図工6
評価 振り返り 自己評価	2月	これまでの活動を振り返り、参観日 に学習してきたことを全員でプレゼ ンした。 手紙とお返しのお礼状を作った。	プレゼンは、学んだことをしっかり振り 返し、保護者に啓発するよい機会とな った。贈り物は気持ちをこめて作成で きた。	総合9

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	日本にあるもの全てではなく、日本にしかない物こそ日本の文化だと気が付いた場面が印象的であった。
異文化を理解する力	3	交流から学んだことは多いが、それまでの事前学習やさらに深く知っていく時間がさらに必要であった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	言葉で伝わらない部分を補おうと、絵や写真を中心に伝えたり、実演を交えたりと、工夫ができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	3	自分たちについて伝えることや、相手国の文化を感じることで精一杯になり、互いに理解し合い深め合うまでには到達しなかった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	児童だけでは難しい部分であるので、教師側から見る視点や調べる視点をもっと伝える必要があった。
主体的に考え行動する力	5	どの活動も、「自分たちの学習だ」という意識を持って、意欲的に取り組むことができた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	学級内での協働する力は高められた。相手校との協働という点では、ただ伝え合うことで終わってしまったように思う。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	壁画、手紙など、どうやったら思いが伝わるかを考え、自分たちの力や知恵を使って取り組んだ。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	学習の段階を踏むごとに学びや気づきを持たせていけば、さらにより学習のまとめにつなげられたように思う。